

新総合体育館基本構想

半田市

目 次

1	基本構想策定について	2
1.1	基本構想策定の背景・目的	2
1.2	本構想の位置づけ	2
1.3	上位関連計画等の整理	3
2	半田市の概況	6
2.1	半田市の位置/広域交通網	6
2.2	人口・スポーツ実施人口の推移	7
2.3	財政（公共施設等総合管理計画（令和4年5月改定）より）	9
3	社会体育施設の現況	10
3.1	社会体育施設の現況	10
3.2	部活動改革の現状と課題	13
4	市民・スポーツ関係団体の意向把握	14
4.1	市民の意向把握	14
4.2	スポーツ協会の意向把握	18
5	現体育施設の課題	20
6	新総合体育館の基本コンセプト	22
6.1	基本コンセプト	22
6.2	基本的な施設整備方針	23
7	建設候補地の選定	25
7.1	整備候補地の現況	25
7.2	候補地の比較評価	27
7.3	建設地及び建設地内の整備場所の検討	29
8	半田運動公園におけるパークマネジメント	30
9	事業スケジュールと今後の課題	31
9.1	事業スケジュール（案）	31
9.2	今後の課題	31

1 基本構想策定について

1.1 基本構想策定の背景・目的

現総合体育館は、昭和 60 年 11 月に地域文化広場を構成する半田市施設として、空の科学館との複合施設として建設されました。アリーナ (43m×33m)、卓球室 (21m×33m)、体育室 (16m×33m) などの施設で構成され、各種大会や教室の開催等、気軽にスポーツに親しむ市民の活動の場所として利用され、多くの市民に親しまれています。

一方で、アリーナの休日予約は飽和状態であり、駐車場の不足により大会開催時には路上駐車が続かないなど、総合体育館として規模が十分でないという状況があります。また、冷暖房設備が整備されておらず利用者の身体的負担に繋がっていることや、バリアフリー化が進んでおらず高齢者や障がい者が利用しづらいなどの課題があり、市民・利用者や競技団体からのニーズを満たしていません。

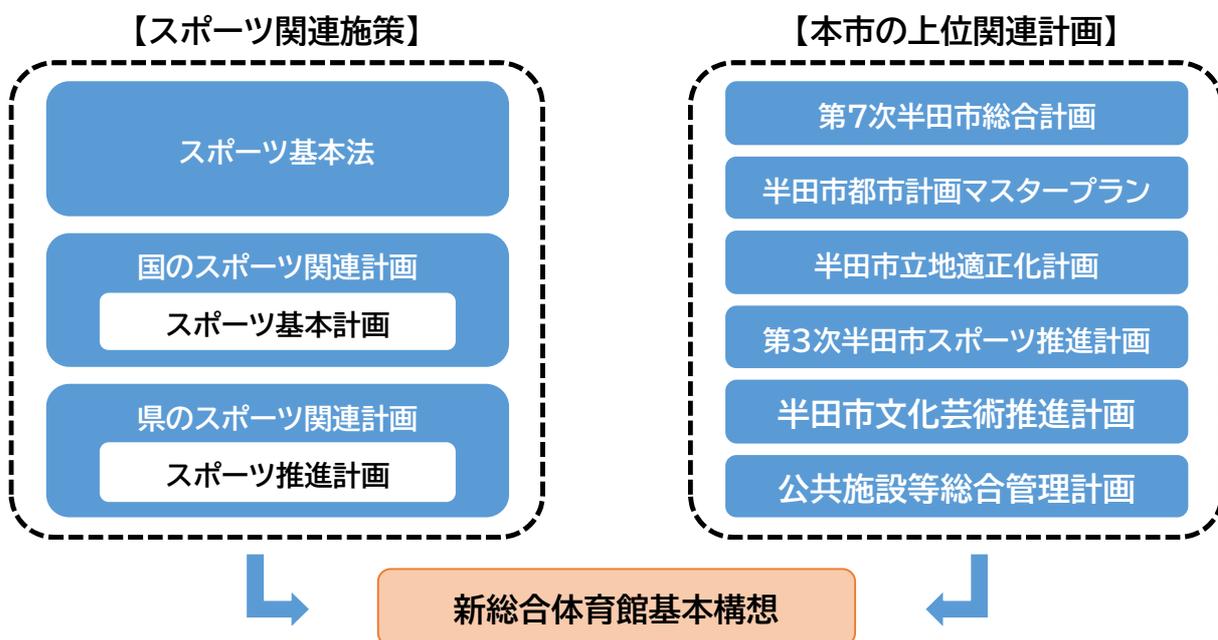
このような状況から半田市スポーツ協会から新体育館建設についての要望が出ており、必要な設備や機能を備えた新総合体育館の整備を進めることが求められています。新総合体育館の整備にあたっては、競技スポーツをはじめ、子どもの健全育成や健康づくりなど、様々な効果が期待できるスポーツ振興の一環として、誰もが安心・安全に利用できる施設づくりが必要と考えられます。

本構想は、市民等のニーズを踏まえ、新総合体育館に求められる機能や設備・規模を明らかにし、整備候補地を選定したうえで、新総合体育館の在り方について、基本的な考え方をとりまとめることを目的とします。

1.2 本構想の位置づけ

本基本構想では、「第7次半田市総合計画」を最上位の計画とし、これに基づくスポーツ推進計画や文化芸術推進計画、公共施設等総合管理計画など市の上位計画・関連計画を踏まえた検討を行います。

また、スポーツ基本計画をはじめとした国や県の関連計画も踏まえた検討を行います。



1.3 上位関連計画等の整理

上位・関連計画等における地域のスポーツ振興等についての記載を以下の通り整理します。

1.3.1 国における関連計画

第3期スポーツ基本計画（令和4年3月）
<ul style="list-style-type: none">● スポーツは、「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「自発的な」参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に本質を持つものとしています。● 国民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すには、以下の3つの新たな視点が必要としています。<ul style="list-style-type: none">▶ つくる / はぐくむ 社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し・改善し、最適な手法・ルールを考え、作り出す。▶ あつまり、ともに、つながる 様々な立場・背景・特性を有した人・組織が集まり課題の対応や活動の実施を図る。▶ 誰もがアクセスできる 性別や年齢、障がい、経済・地域事情等の違いによって、スポーツ活動の開始や継続に差が生じないような社会の実現や機運の醸成を図る。

1.3.2 県における関連計画

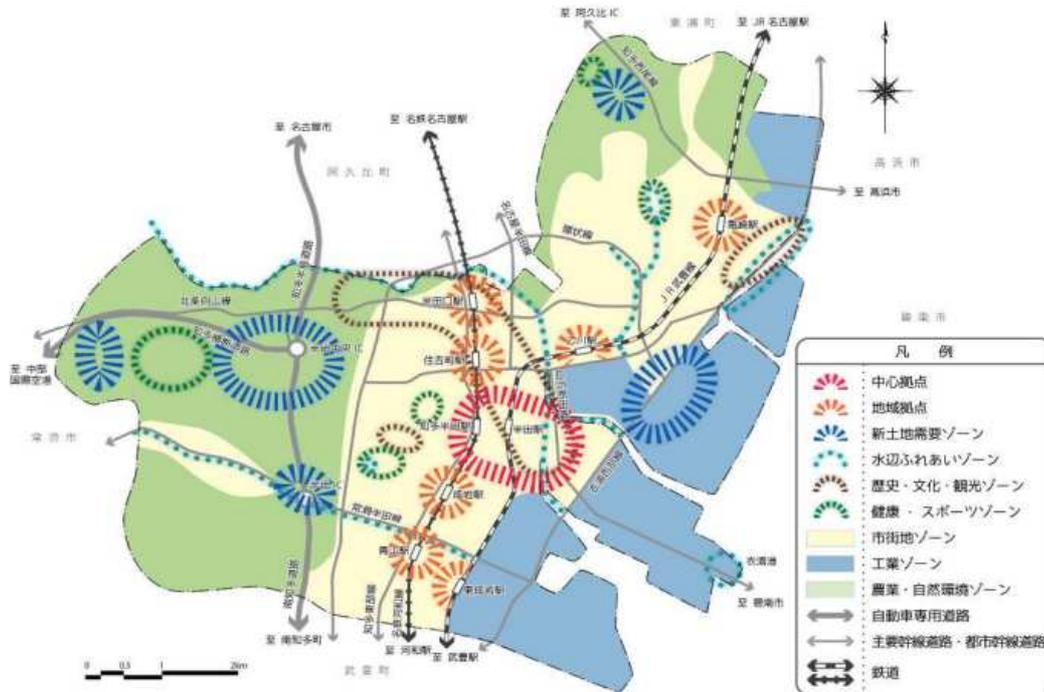
愛知県スポーツ推進計画 2023-2027（令和5年3月）
<ul style="list-style-type: none">● 愛知県のスポーツ振興に関する中長期的な展望と、総合的な施策を示すもので、「目指すべき姿」として以下の3つを挙げています。<ol style="list-style-type: none">① すべての人が生涯にわたりスポーツに関わり、スポーツにより人と人がつながる。② 世界で活躍するトップアスリートを継続的に輩出し、夢や感動を分かち合う。③ スポーツを通じて世界から人を呼び込み、交流を生み出し、持続的に成長する。

1.3.3 市における関連計画

第7次半田市総合計画（令和3年3月）
<ul style="list-style-type: none">● 本計画の計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間であり、「あらゆる主体のチャレンジ機会の提供・支援」「子育て世代の定住促進」など10項目から成る主要課題を整理しています。● 基本的な方向の一つとして「つながり助けあう 健康と笑顔を育むまち」を掲げ、市民がスポーツを生涯にわたり気軽に親しめるよう、関係機関と連携・協力して市民の健康増進と笑顔につながる取組を進めるとしています。

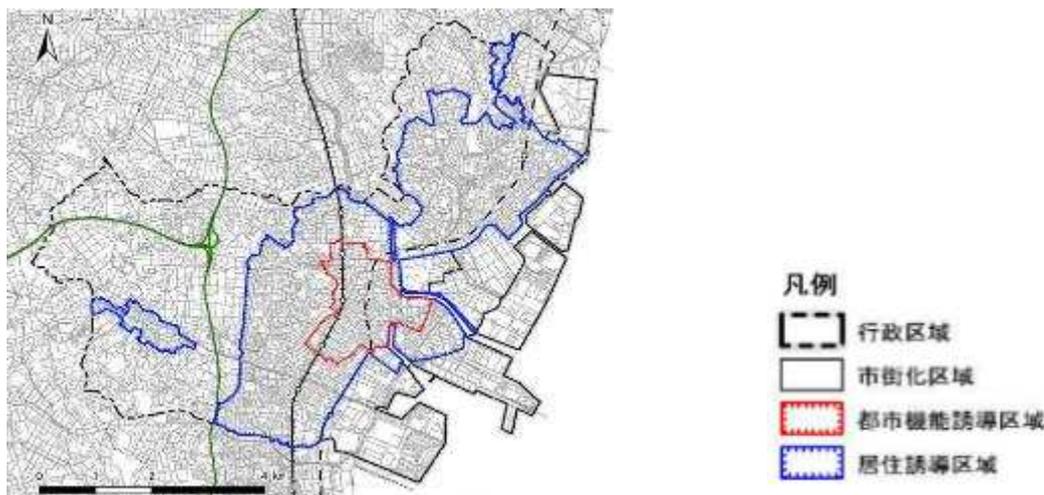
半田市都市計画マスタープラン（令和3年3月）

- 本計画の目標年次は令和12年度で、都市づくりの基本理念を「活気にあふれた、暮らし続けたい都市・はんだ」としています。
- 基本理念の実現に向けて「高い利便性を確保し、選ばれる都市づくり」などから成る5つの目標を設定しており、下記の通り将来都市構造を設定しています。



立地適正化計画（令和3年3月）

- 本計画の目標年次は令和22年度であり、市内全域を対象として策定されています。
- 効率的なサービス提供のために、都市機能を誘導し集積すべき「都市機能誘導区域」と、人口密度を維持するための区域である「居住誘導区域」を下記の通り設定しています。



- 本市の都市機能誘導区域に立地を誘導すべき誘導施設として、保健センター、文化ホール、延床面積3,000㎡超の商業施設、子育て支援センター、地域包括支援センター、障がい者相談支援センター、福祉センター、市役所が設定されています。

スポーツ推進計画（令和3年3月）

- 本計画の計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間であり、「だれでも」「いつでも」「どこでも」「いつまでも」気軽にスポーツに親しむことができる社会すなわち「生涯スポーツ社会」の実現を図ることを基本理念として掲げています。
- 次の二つを計画の目標値に定め、達成に向けて「活動プログラムの充実」「スポーツ施設の整備・活用」「総合型地域スポーツクラブ活動の充実」などから成る7つの施策を柱として推進するとしています。
 - 成人市民のスポーツ実施率（週1回以上スポーツをする人の割合）を現状の43.3%から65.0%に引き上げる。
 - 総合型地域スポーツクラブ会員数を現状の7,487人から8,000人に増やす。
- 「活動プログラムの充実」については、市民がスポーツに親しむことができ、また、スポーツに取り組むきっかけづくりとなるようなスポーツプログラムを充実させるとしています。また、スポーツ人口を増やすために、半田市スポーツ協会、半田市スポーツ推進委員連絡協議会、総合型地域スポーツクラブなどのスポーツ関係団体の活動の支援も行うとしています。
- 「スポーツ施設の整備・活用」については、施策内容として学校体育施設開放事業の促進、バリアフリー化、施設予約システムの利用促進、施設の効率的かつ有効的な利用などが挙げられており、スポーツ以外の用途も含めた利用促進を図るとされています。
- 「総合型地域スポーツクラブ活動の充実」については、総合型地域スポーツクラブへの支援として、社会体育施設の管理業務の委託先として総合型地域スポーツクラブを優先し、新規事業の展開による運営の安定化を支援することなどが挙げられています。

文化芸術推進計画（令和4年3月）

- 本計画の計画期間は令和4年度から令和13年度までの10年間であり、「アートの力で”プラスワン”あふれる市民生活の醸成を」を基本理念とし、観光・教育・福祉・まちづくりなど、幅広い分野において文化芸術の活用を推進していく指針として策定されています。

公共施設等総合管理計画（平成29年3月）（令和4年5月改定）

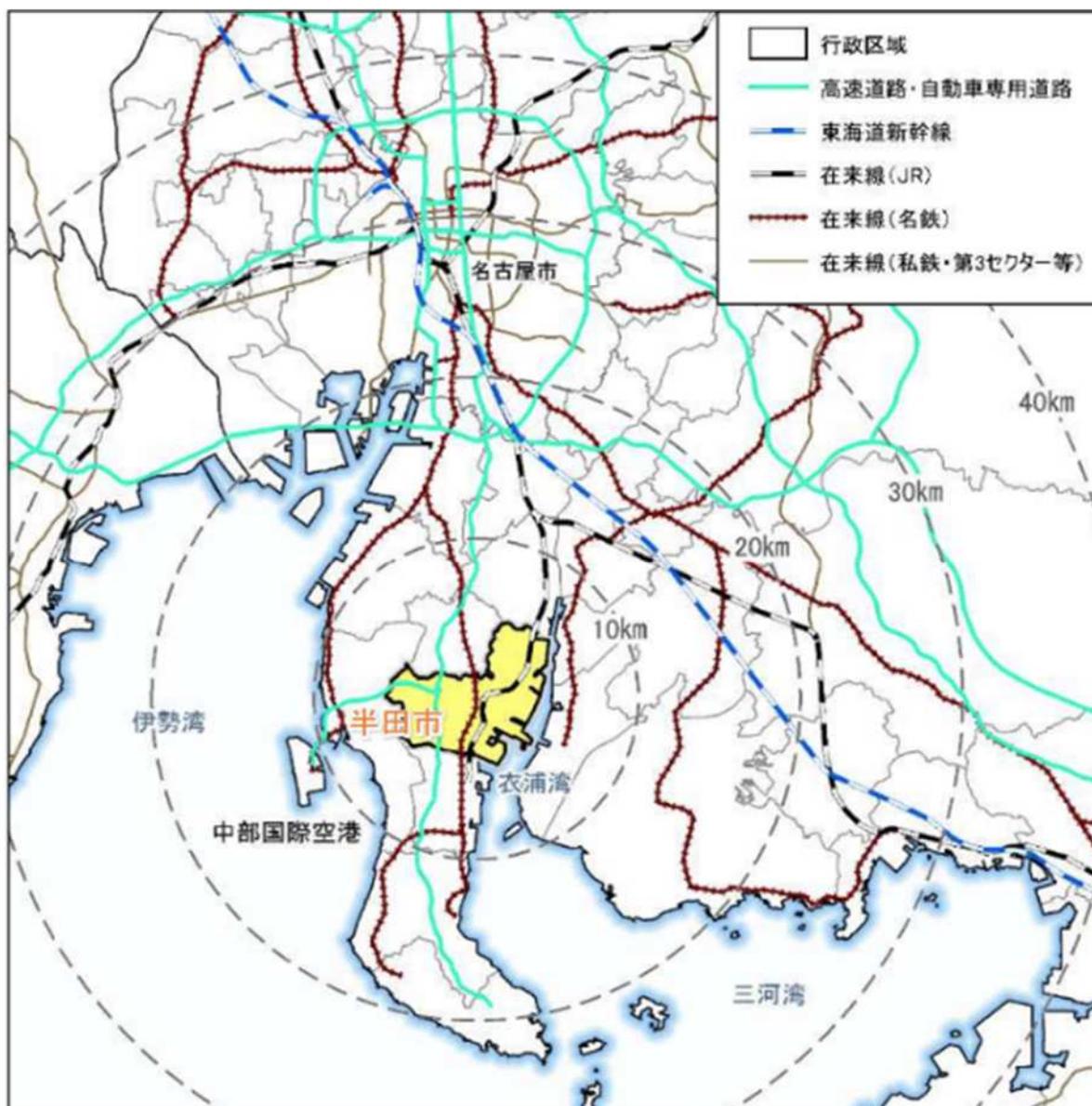
- 本計画の計画期間は令和4年度から令和43年度までの40年間であり、公共施設等の総合的かつ計画的な管理の基本的な方針を定めています。
- 更新等に際しては、国の「多様なPPP/PFI手法導入を優先的に検討するための指針」に示される対象事業について、民間の技術・ノウハウ、資金等を活用するPPP/PFIの導入を検討するとしています。なお、機能としては必要であるものの、現在の規模を維持したまま更新することが不相当と判断される建築物については、複合化または減築等を行うとしています。
- 統合・廃止の実施方針として、本来の設置目的による役割を終えた施設や代替施設がある老朽化施設などについては、適正な配置と効率的な管理運営を目指し、統合・廃止を検討するとしています。また、今後の人口や税収の減少可能性を見据え、民間での代替や近隣市町との共同設置といった広域連携も重要な視点としています。

2 半田市の概況

2.1 半田市の位置/広域交通網

本市は、名古屋市の南、知多半島のほぼ中心に位置しており、名鉄河和線とJR武豊線の鉄道2路線により名古屋市と結ばれています。また、知多半島の各都市や名古屋市と連絡する知多半島道路や南知多道路、中部国際空港へ連絡する知多横断道路があり、半田中央ジャンクションにより自動車専用道路が交差しています。主要な道路としては国道247号、国道366号の2路線、県道は名古屋半田線、半田常滑線、碧南半田常滑線（衣浦トンネル）、西尾知多線等13路線があります。また、古くから衣ヶ浦を背景とした海運業や醸造業等で栄えた臨海部には衣浦港が整備されており、陸・海・空の広域的な物流の利便性が高い都市となっています。

その他に半田税務署・名古屋地方検察庁・名古屋地方裁判所・名古屋法務局・半田警察署・愛知県知多総合庁舎・愛知県半田保健所等の国・県の施設や第3次救急医療機関である知多半島総合医療センターが立地しており、知多地域の中核的な都市として機能しています。



〈半田市 位置図〉

2.2 人口・スポーツ実施人口の推移

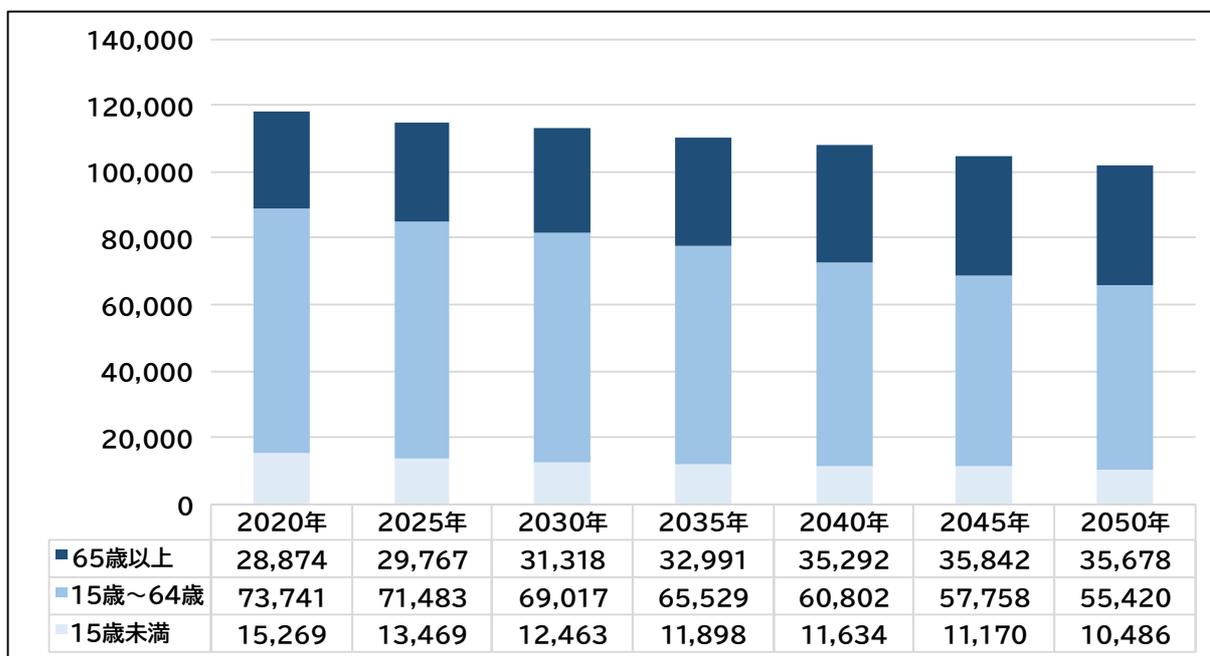
2.2.1 人口の推移

国勢調査による本市の人口は平成22年（2010年）まで増加を続けていましたが、住民基本台帳によれば平成21年（2009年）をピークに人口は減少に転じており、令和2年（2020年）の国勢調査の結果では、117,884人となりました。

国立社会保障・人口問題研究所による推計では、令和32年（2050年）には、令和2年（2020年）の117,884人から16,300人減少し、101,584人になることが予測されています。

しかし、第7次半田市総合計画（令和3年3月策定）では令和12年（2030年）の目標人口を118,000人としており、半田市人口ビジョン（平成27年10月策定）では令和42年（2060年）の人口として10万人程度を確保するとしています。

〈将来人口の推移〉



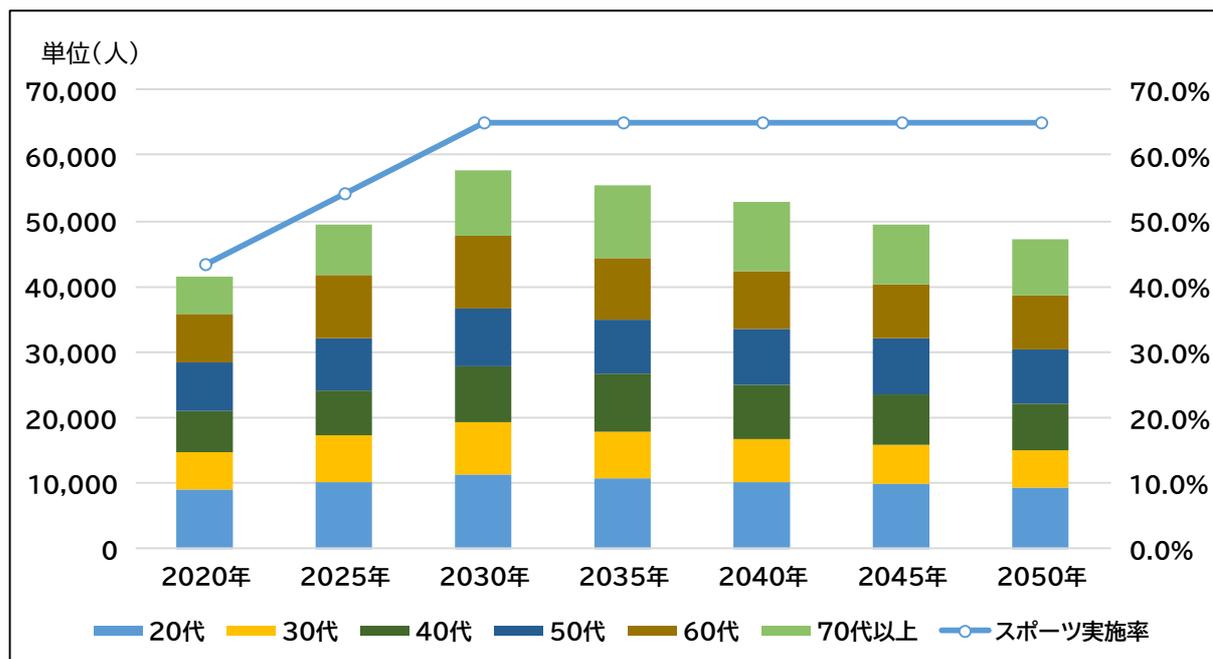
出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」より作成

2.2.2 スポーツ実施人口の推移

第3次半田市スポーツ推進計画において、成人市民のスポーツ実施率（週1回以上スポーツをする人の割合）を令和2年（2020年）の43.3%から、令和12年（2030年）には65.0%に引き上げることを目標としています。

2030年までにスポーツ実施率を65.0%まで段階的に引き上げ、2031年以降はその割合を維持すると想定した場合において、本市の週1回以上スポーツをする成人人口は2030年の57,725人をピークに減少していくことが見込まれます。

〈週1回以上スポーツをする成人人口の推移〉



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
スポーツ実施率	43.3%	54.2%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%
週一回以上スポーツをする成人人口	41,402人	49,405人	57,725人	55,441人	52,775人	49,463人	47,056人

出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」より作成

2.3 財政（公共施設等総合管理計画（令和4年5月改定）より）

2.3.1 歳入

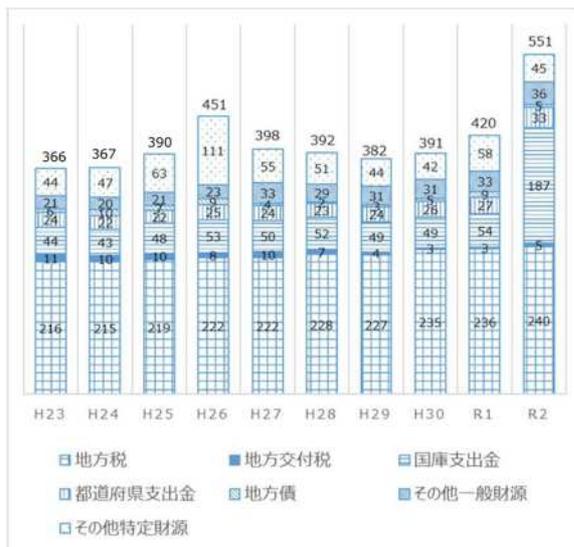
普通会計における過去10年間の歳入決算を見ると、新庁舎建設事業や半田赤レンガ建物整備事業等の大型事業が集中した平成26年度と新型コロナウイルス感染症対策を実施した令和2年度を除けば、やや増加傾向で推移しています。

2.3.2 歳出

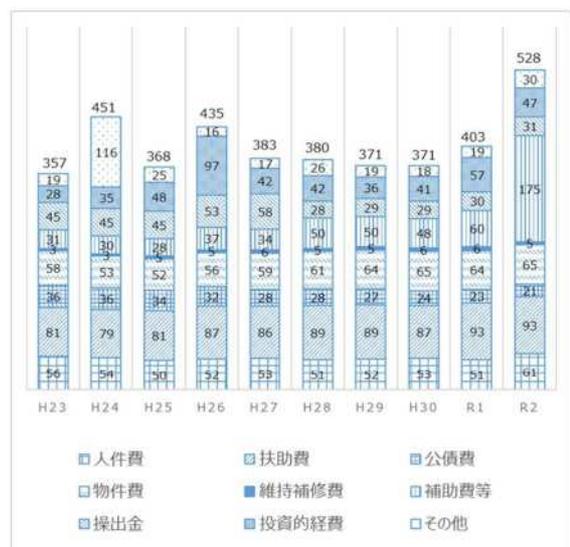
普通会計における歳出の推移を性質別に見ると、扶助費が増加傾向であり、今後も、高齢化の進行等による増加が見込まれるため、義務的経費の増大が懸念されます。また、投資的経費を見ると、平成26年度に新庁舎建設事業、半田赤レンガ建物整備事業等の大型事業が重なったため、97億円と大きくなっています。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として実施した特別定額給付金事業費等の影響で補助費等が大幅に増加しています

〈歳入決算額の推移（単位：億円）〉



〈性質別歳出決算額の推移（単位：億円）〉



出所：公共施設等総合管理計画（令和4年5月改定）

3 社会体育施設の現況

3.1 社会体育施設の現況

3.1.1 半田市体育館

(1)施設概要

半田市体育館は半田市空の科学館との複合施設として昭和 60 年（1985 年）に整備されました。

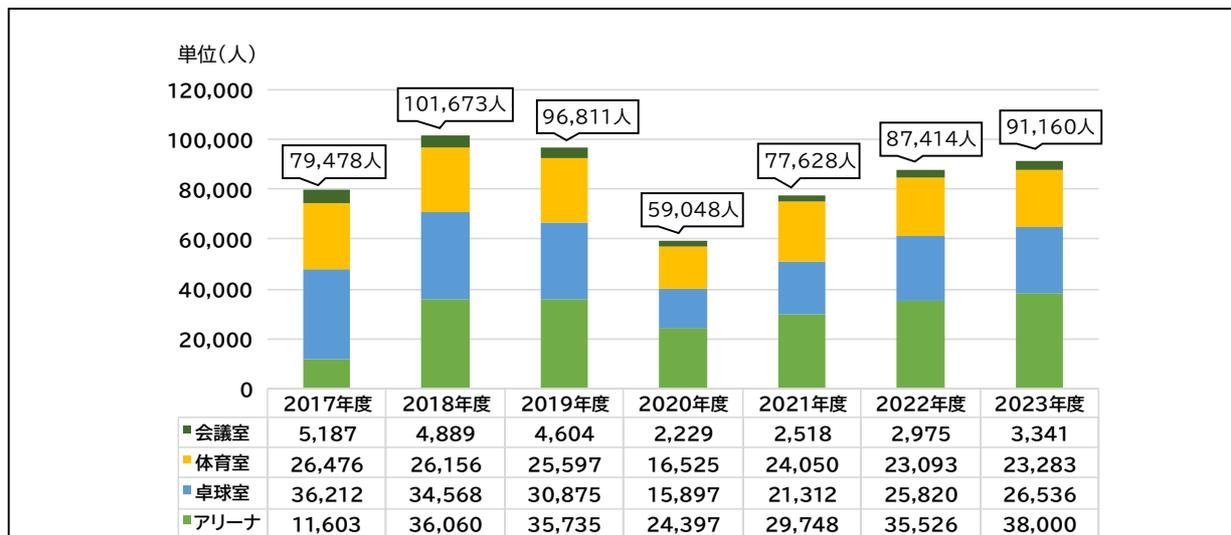
〈基本情報〉

所在地	愛知県半田市桐ヶ丘 4-210		用途地域	第2種中高層住居専用地域
開設	昭和 60 年（1985 年）		築年数	40 年
構造	鉄筋コンクリート造		事業費	962,797 千円（周辺整備費込）
敷地面積	6,217 ㎡		延床面積	4,360 ㎡
営業時間	9:00～21:30（休館日：毎月第 1・3・4・5 月曜日 / 12 月 29 日～1 月 3 日）			
駐車場	科学館北駐車場 62 台、任坊山公園駐車場 92 台 ※空の科学館、図書館、博物館と共同利用			
設備内容	フロア	半田市体育館		半田市空の科学館
	地下	<ul style="list-style-type: none"> ・体育室（約 530 ㎡） ・卓球室（約 690 ㎡） ・会議室（約 36 ㎡） ・器具庫①（約 36 ㎡） ・器具庫②（約 18 ㎡） ・器具庫③（約 18 ㎡） ・男子更衣室（約 20 ㎡） ・男子シャワー室（約 9 ㎡） ・女子更衣室（約 20 ㎡） ・女子シャワー室（約 9 ㎡） ・便所（2 箇所） ・健康相談室（約 10 ㎡） 		—
	1 階	<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナ（約 1,420 ㎡） ・器具庫（約 120 ㎡） ・男子更衣室（約 29 ㎡） ・男子シャワー室（約 10 ㎡） ・女子更衣室（約 29 ㎡） ・女子シャワー室（約 10 ㎡） ・便所（2 箇所） ・観覧室（約 6 ㎡） 		<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムホール(240 席) ・舞台・袖舞台 ・楽屋 ・第一展示室 ・エントランスホール ・ふれあいホール ・事務室 ・便所（4 箇所） ・身障者便所（1 箇所）
	2 階	<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナ観客席（348 席） 		<ul style="list-style-type: none"> ・第二展示室 ・特別展示室 ・休憩室 ・便所（1 箇所）
	3 階	—		<ul style="list-style-type: none"> ・天体観測所

(2)施設の利用状況

2023年度の半田市体育館の利用者数は、合計 91,160 人となっており、新型コロナウイルス対策として閉鎖されていた期間のある2020年度以降、増加傾向にあります。また、2023年度の時間帯別稼働率（営業期間のうち、利用があった日数の割合）を見ると、アリーナは主に17時以降、卓球室は全ての時間帯で8割以上の稼働となっております。

〈半田市体育館 利用者数の推移〉



出所：「半田市体育館 年次報告書」より作成

〈2023年度 半田市体育館 時間帯別稼働率〉

	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
アリーナ（西側）	54.3%	75.8%	81.5%	65.0%	89.9%	88.2%	74.0%	72.7%	80.9%	82.6%	84.1%	79.8%	63.5%
アリーナ（東側）	64.5%	93.2%	92.5%	66.9%	74.8%	75.7%	73.2%	74.8%	84.9%	90.0%	91.7%	87.5%	71.7%
体育室（前側）	66.4%	78.5%	70.4%	32.2%	76.1%	78.8%	71.9%	62.3%	48.3%	47.9%	58.8%	55.5%	20.0%
体育室（奥側）	31.2%	45.3%	47.6%	36.9%	56.8%	54.9%	57.5%	71.3%	67.7%	51.3%	60.6%	58.0%	39.5%
卓球室	97.6%	98.6%	98.6%	98.3%	98.3%	97.9%	96.0%	83.8%	90.2%	94.0%	97.0%	93.6%	84.5%
会議室	6.1%	7.1%	12.4%	13.6%	14.7%	11.3%	9.7%	42.4%	40.1%	39.8%	30.7%	18.8%	0.7%

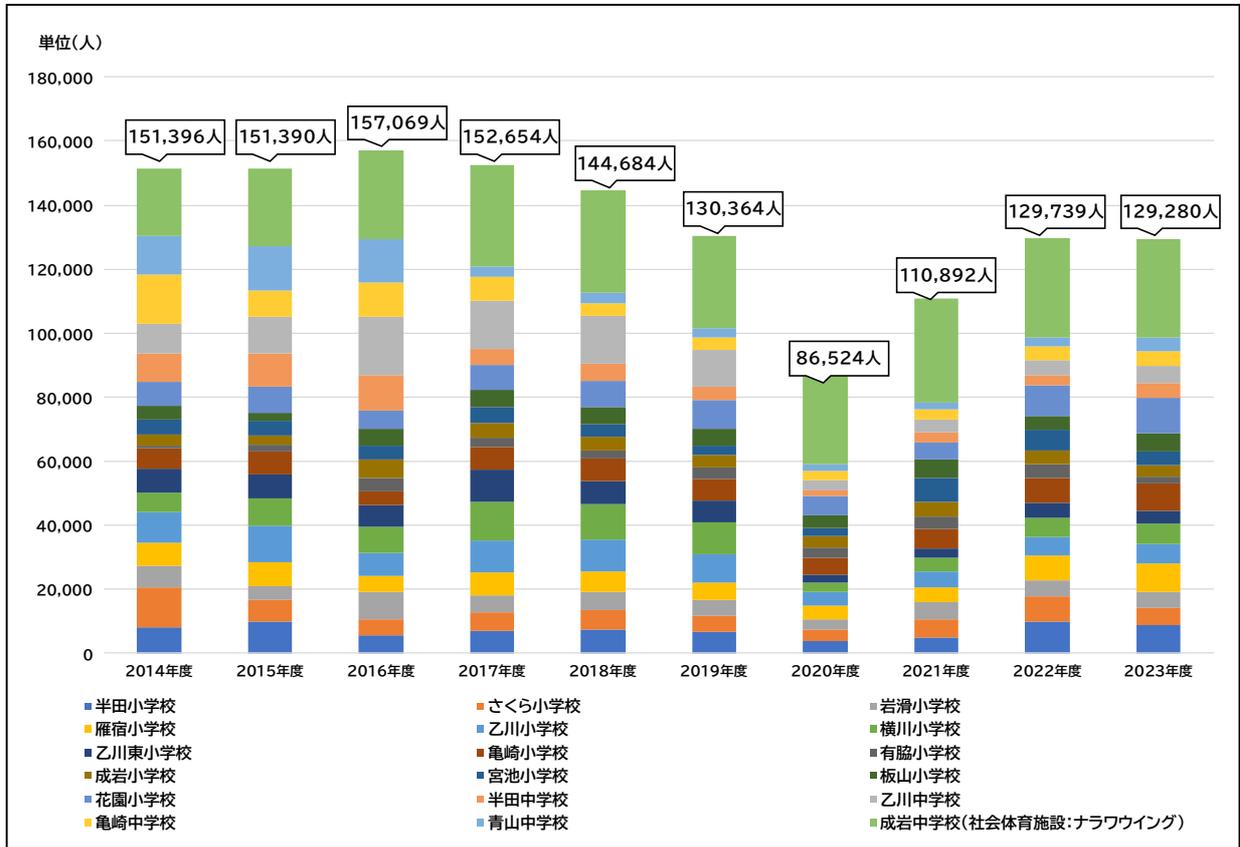
凡例：	20%未満	20%以上	40%以上	60%以上	80%以上
-----	-------	-------	-------	-------	-------

出所：「令和5年度体育館稼働率状況」より作成

3.1.2 半田市の体育施設（屋内体育館）

市内の屋内体育施設の年間利用者数は、2023年度で合計129,280人となっており、2020年度以降は増加傾向にあります。各屋内体育館の予約は飽和状態にあり、新たな団体については定期的な利用が困難な状況にあります。

〈屋内体育館 利用者数の推移〉



3.1.3 半田市の体育施設（その他）

市内のその他体育施設の現況を、下表の通り整理しました。

施設名	住所
半田びよログスポーツパーク（半田運動公園）	半田市池田町 3-1-1
青山記念武道館	半田市青山 2-1-2
半田福祉ふれあいプール	半田市乙川末広町 50-1
半田市成岩地区総合型地域スポーツクラブハウス	半田市昭和町 3-8（成岩中学校内）
半田北部グラウンド	半田市石塚町 3-1
半田市営球場	半田市雁宿町 2-1
雁宿テニスコート	半田市雁宿町 2-1
半田市営弓道場	半田市 11号地 24
臨海公園テニスコート・フットサルコート	半田市 11号地 24
半田上浜グラウンド	半田市上浜町 26-4
半田マリングラウンド	半田市川崎町 4-1-1
瑞穂公園広場	半田市瑞穂町 8-10

4 市民・スポーツ関係団体の意向把握

4.1 市民の意向把握

4.1.1 市民アンケート

(1)調査概要

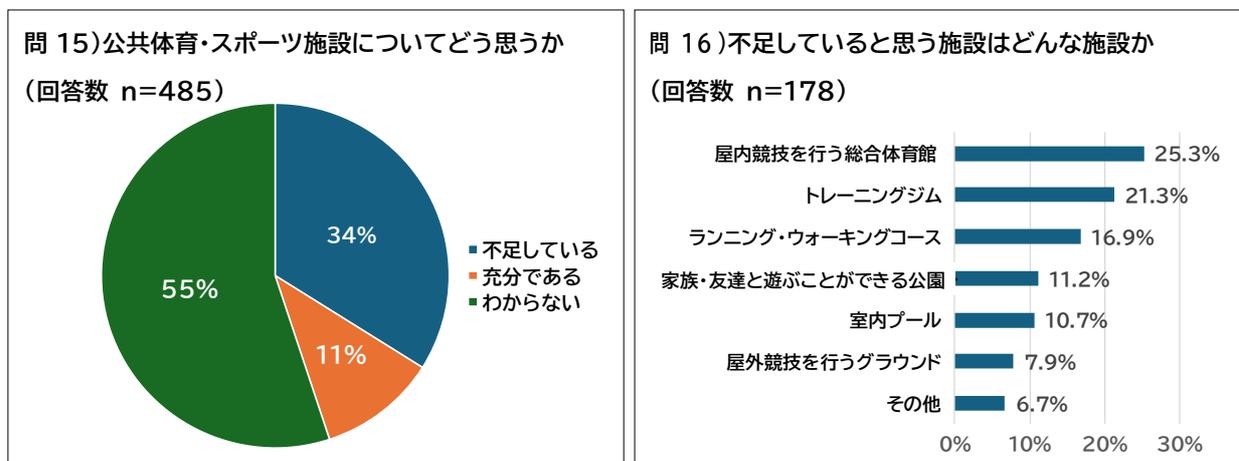
市民の社会体育施設に対するニーズ等を把握するためにアンケート調査を実施しました。

調査期間	令和5年11月～12月
調査対象	半田市内在住18歳以上の2,000人
調査方法	WEBまたは郵送
回答件数	495件

(2)結果概要

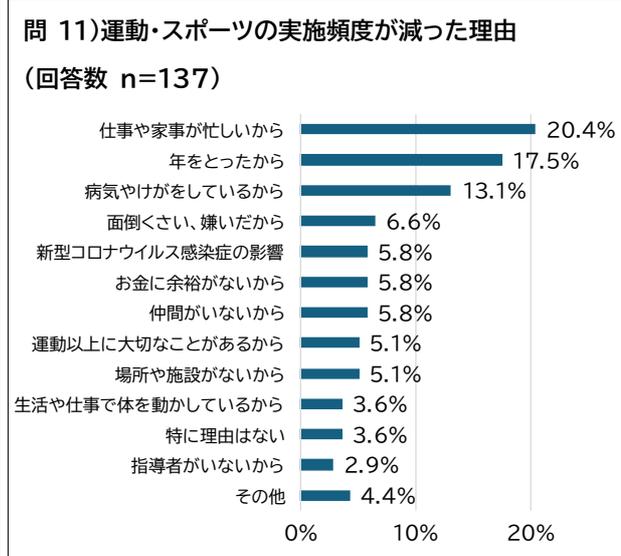
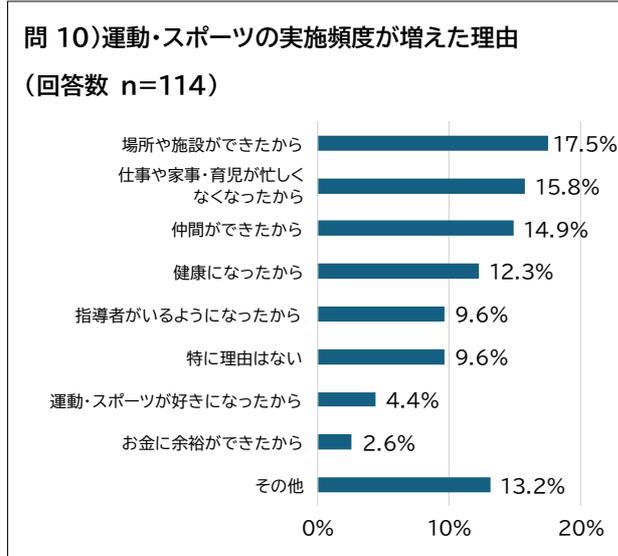
- 「公共体育・スポーツ施設が不足している」と感じている市民の割合は、「十分である」と感じている市民よりも多くなり、特に「屋内競技を行う総合体育館が不足している」との回答が多くなりました。
- 現在の運動・スポーツ実施状況と今後の予定を年齢別に観ると、60歳以上が増えているが、20歳代～40歳代が他の年代に比べて減少傾向にあることがわかりました。
- 20代～40代の運動・スポーツ実施頻度を向上させるために必要なものとしては、「21時以降も利用できる施設」、「公共交通機関が整備されている施設」「託児所が併設されている施設」などが多く挙げられました。
- 1年前と比べて運動・スポーツの実施頻度が増えたと回答した人の理由としては、「場所や施設ができたから」「仕事や家事・育児が忙しくなくなったから」「仲間ができたから」が多く挙げられました。
- 1年前と比べて運動・スポーツの実施頻度が減ったと回答した人の理由としては、「仕事や家事が忙しいから」「年を取ったから」「病気やケガをしているから」が多く挙げられました。

(3)アンケートデータ（一部抜粋）



問 7) 運動・スポーツについて、現在の実施状況と今後の予定を教えてください。(回答数 n=486) (単位：%)			現在定期的に運動・スポーツをしており、6ヶ月以上継続している	現在定期的に運動・スポーツをしているが、始めてから6ヶ月以内である	現在運動・スポーツをしていないが、定期的ではない	現在運動・スポーツはしていないが、6ヶ月以内に始めようと思っている	現在運動・スポーツはしておらず、今後もするつもりはない		
属性		件数							
性別	男性	219	52.1		4.6	16.9	7.8	18.7	
	女性	266	44.4		3.4	16.5	9.4	26.3	
	あてはまらない	1	100.0						
年齢	18～19歳	10	40.0		10.0	20.0	20.0	10.0	
	20～29歳	37	29.7	5.4	32.4	16.2	16.2		
	30～39歳	57	36.8		1.8	21.1	10.5	29.8	
	40～49歳	66	25.8	6.1	27.3	16.7	24.2		
	50～59歳	51	43.1		3.9	23.5	5.9	23.5	
	60～64歳	38	50.0			10.5	13.2	5.3	21.1
	65～74歳	141	61.0			2.1	9.9	4.3	22.7
	75歳以上	83	61.4			2.4	7.2	8.4	20.5

問 14) 運動・スポーツの実施頻度を向上させるために必要なもの(回答数 n=175) (単位：%)			21時以降も利用できる公共体育・スポーツ施設	託児所が併設されている公共体育・スポーツ施設	公共交通機関が整備されている公共体育・スポーツ施設	飲食や音楽など娯楽の要素がある公共体育・スポーツ施設	スポーツジャンル単機能の公共体育・スポーツ施設	その他	
属性		件数							
性別	男性	88	26.1		4.5	15.9	14.8	19.3	19.3
	女性	82	12.2	9.8	22.0	23.2	17.1	15.9	
	あてはまらない	0							
年齢	18～19歳	3	33.3			33.3	33.3	33.3	
	20～29歳	20	25.0	10.0	30.0	10.0	20.0	5.0	
	30～39歳	31	25.8	25.8	3.2	19.4	16.1	9.7	
	40～49歳	33	21.2	3.0	12.1	12.1	24.2	27.3	
	50～59歳	17	35.3		5.9	23.5	11.8	23.5	
	60～64歳	15	20.0	26.7	20.0	6.7	26.7		
	65～74歳	33	12.1	3.0	27.3	24.2	18.2	15.2	
	75歳以上	23	4.3	30.4	30.4	21.7	13.0		



4.1.2 市民ワークショップ

(1)実施概要

市民の新総合体育館に対するニーズ等を把握するために市民ワークショップを実施しました。

開催日時	令和7年1月23日(木) 18:30~20:00	開催の様子
参加者	半田市スポーツ協会に所属する屋内スポーツ団体の選手等(14名)	
実施内容	下記テーマについてグループ毎に意見交換を実施	
テーマ	半田祭を想定して新たな総合体育館に必要な機能・諸室	

(2)実施結果

テーマに対する主な意見を下記の通り整理しました。

分類	必要な機能・諸室
アリーナ	・大規模な大会や様々な競技への対応可能なアリーナ ・窓の開閉やポール設置の自動化など効率的な設営撤収を支える機能 ・視認性の高いコートラインなど快適な競技環境を支える機能 など
観覧	・落下防止柵など安全性への配慮がされた観客席 ・車椅子でも観覧しやすいようバリアフリーへの配慮がされた観覧席 ・大型ディスプレイ、天井モニター など
多目的	・多目的室、講習室、武道場、ミラールーム、防音機能のある部屋 など
大会運営	・大会運営や打ち合わせに利用できる会議室、役員室 など
競技者支援	・更衣室、シャワー、入浴室 ・医務室など競技者への応急手当てが可能な設備 など
利便性向上	・トイレ、多目的トイレ、売店、自動販売機、ロッカー、駐車場、駐輪場、Wi-Fi環境、ネット予約システム など
交流	・ロビー、エントランス、交流スペース など
子育て支援	・託児所、授乳室、キッズスペース、子どもが自由に運動できる場所 など
宿泊	・レジャー目的だけでなく競技選手の合宿でも活用できる宿泊機能 など
健康 トレーニング	・トレーニングルーム、ランニングコース、エクササイズルーム、プール、サウナ など
飲食機能	・スポーツカフェ、レストランなどの一般利用者向け飲食施設 ・選手の合宿時に利用できる食堂施設 など
情報発信	・体育館を中心として半田市の情報発信ができる機能 など
交通	・定期・臨時バスの運行、公共交通機関でのアクセス など
防災	・避難所機能、耐震・免震機能 など
設備	・風向き調整ができる空調機能 ・ソーラー発電など環境へ配慮した設備 など
倉庫・搬入路	・器具庫、運搬用の台車、協会専用の保管庫 など

(3)参加者アンケート

市民ワークショップへの参加者にアンケートを実施しました。結果として、アリーナ（バスケットコート3面）、観覧席、防災機能が特に重要だと考えられていることが分かりました。

本日のワークショップを通して、新総合体育館で重要と思われる導入機能・諸室・設備について教えてください。
 (回答数 n=14)

		重要である・計		重要でない・計		無効回答	
		とても重要である	重要である	あまり重要でない	重要でない		
		(単位：%)					
項目	アリーナ a/バスケットコート3面	14	85.7		7.1	7.1	
	観覧席	14	85.7			14.3	
	防災機能	14	57.1	14.3	7.1	14.3	7.1
	倉庫・機材搬入	14	35.7		50.0	7.1	14.3
	大会等運営	14	28.6	21.4	35.7	7.1	7.1
	子育て機能	14	28.6	14.3	35.7	14.3	7.1
	救護機能	14	21.4	42.9		28.6	7.1
	コミュニティ機能	14	21.4		50.0	14.3	7.1
	健康増進・リハビリ機能	14	21.4	35.7		28.6	7.1
	文化芸術活動等の多様な活動を行える機能	14	21.4	21.4	14.3		42.9
	競技者支援機能	14	14.3		50.0	28.6	7.1
	武道場	14	7.1		50.0	7.1	35.7
	ユニバーサルデザイン	14	7.1	35.7		28.6	21.4
	環境配慮型の設備	14	7.1	42.9		28.6	21.4
	情報発信機能	14	7.1	21.4		28.6	35.7
	アリーナ b/バスケットコート2面	14	7.1		7.1		21.4

4.2 スポーツ協会の意向把握

4.2.1 スポーツ協会からの要望書

半田市スポーツ協会から提出された「半田市新総合体育館建設について 要望書」（令和4年12月9日）の内容を下記の通り整理しました。

(1)建設規模について

基本機能

- 「観る」スポーツ、「する」スポーツを考慮した施設規模であること
- 冷暖房設備を完備していること
- 幼児から大人まで、障がいの有無に関係なく利用できる施設であること
- バリアフリー化をもちろんのこと、誰もが安心・安全に利用できる施設であること
- 防災機能を持ち、災害時は防災拠点として活用できる施設であること

施設機能を要望する。

- バasketコート4面が確保できるメインアリーナ
- バasketコート2面が確保できるサブアリーナ
- 2,000席程度の観客席（東西南北の4面）
- トレーニングルーム、多目的ルーム、ランニングコース、弓道場、プール、会議室

(2)建設場所について

半田運動公園周辺（公園敷地内を含む）

- 運動公園内の陸上競技場等の屋外施設と合わせて整備することで、総合運動公園として機能し、移転する半田市立半田病院との連携も期待できる
- 標高が高く、高速道路とのアクセスにも優れているため、災害時の避難所や支援拠点としての機能を期待できる
- 半田市立半田病院の移転により、バスの運行など交通アクセスの利便性の向上を期待できる

(3)建設時期について

市制90周年を迎える令和9年度（2027年度）での開館を目標

4.2.2 ヒアリング調査

(1)実施概要

新たな総合体育館に必要な規模・機能を把握するため、半田市スポーツ協会の加盟団体のうち、体育館の利用が見込まれる団体に対してヒアリング調査を実施しました。

調査期間	令和7年1月28日（火）～30日（木）
調査対象	・半田市バスケットボール協会 ・半田市バレーボール協会 ・半田市ハンドボール協会 ・半田市卓球協会 ・半田市カローリング協会 ・半田市剣道連盟 ・半田柔道会
調査方法	対話形式での個別ヒアリングを実施
調査内容	半田祭を想定して新たな総合体育館に必要な規模・機能

(2)実施結果

半田祭を行うために必要な規模に関する意見を、以下の通り競技ごとに整理しました。

競技名	半田祭を行うために必要な規模			
	メインアリーナ	サブアリーナ	駐車場	その他
バスケットボール	3面	1面	450台	コート間隔は4m程度必要
バレーボール	4面		300台	コート間隔は4m程度必要
ハンドボール	2面	1面	330～350台	コート間隔は5m以上必要
卓球	卓球台24台		350台	卓球台1台あたり9m×5m以上の面積確保が必要
カローリング	20面		80台	コートサイズは3m×13m（2面1組） コート間隔は0.6m程度必要 コート外側は片側3m程度必要
剣道	4面		300台	コートサイズは11m×11m コート間隔は1.5m～2m程度必要
柔道	8面		600台	

半田祭を行うために必要な機能に関する意見を以下の通り整理しました。

必要な諸室等	・大会本部用エリア ・役員控室 ・会議室 ・医務室 ・器具庫 ・ロッカールーム ・更衣室 ・シャワー室 ・トレーニング室 ・観覧席 ・飲食エリア ・選手控室 ・合宿施設 など
必要な設備等	・冷暖房設備 ・放送設備 ・コートを区切るためのネットやフェンス ・搬入出用の駐車場 ・搬入出口 ・ポールを設置する穴のカバー ・大会の進捗状況等をリアルタイム発信できるモニター ・情報掲示板（大会等の情報発信） ・大型ビジョン など
その他	・安全性を考慮し、フローリング以外の床材でも構わない ・ずれにくくクッション性がある畳を使用すればダンパーは不要（柔道）など

5 現体育施設の課題

上位関連計画にあるスポーツ振興の考えや社会体育施設、現体育館の現況、市民・スポーツ関係団体の意向等から現体育館の抱える課題を以下の通り整理しました。

① 体育館規模の拡大

アリーナや卓球室の予約状況は飽和状態となっており、新規の利用者が予約しづらい状態になっています。また、利用者数も増加傾向にあることから今後の更なる混雑が予想されます。さらには、予約の飽和により、スポーツ機会の提供ができていない状態が続けば、「スポーツ実施の諦め」の機運を高め、スポーツ実施率の低下に繋がる恐れがあると考えられます。

このため、こうした現状や利用者ニーズ等を踏まえ体育館規模の拡大を図る必要があります。

② 観客席の拡大

現体育館の観客席の規模は 348 席となっており、大規模な大会運営や多くの観覧が見込まれる半田市スポーツ大会（半田祭）等の大規模な各種イベントなどの誘致が難しく、スポーツ協会からは 2,000 席規模の観客席の確保の意向があります。

このため、スポーツを「観る」という観点から、大規模イベントなどにも対応可能な一定の観客席を持った体育館の整備が必要と考えられます。

③ 駐車場の確保

現体育館の駐車場は空の科学館、図書館、博物館と共同利用となっており、大会開催時には路上駐車をする利用者が多くなっています。

利用者の移動手段は基本的に自動車利用が多いことから、今後の利用者数拡大を図る上でも駐車場の確保が必要条件となります。

④ 体育館設備の拡充

現体育館には冷暖房設備がなく、夏場にはアリーナの室内温度は 35 度を超えることもあり、利用者の身体的負担に繋がっています。また、スポーツを実施する上でウォーミングアップをする場所の不足や「多くの種目の競技に対応できていない」との指摘もあります。さらには大会運営からみても安全で効率・効果的な運営ができる機能・諸室が配置できていない状況があります。

このため、こうした現状を踏まえ利用者ニーズや大会運営からみた機能・諸室、設備を備える必要があります。

⑤ ユニバーサルデザインの導入

現体育館には 2 階の観客席へ向かうエレベーターや多目的トイレが整備されていないなど、バリアフリー化が進んでおらず、高齢者や障がい者が利用しづらい状態となっています。また、1 階の諸室へ向かう動線が分かりづらい状況があります。

このため、施設配置や各種設備、機能の案内・誘導からみてユニバーサルデザインからみた改善が必要となっています。

⑥ 施設の老朽化対策

現体育館の築年数は 2025 年時点で 40 年となっておりますが、これまでに大規模改修工事は実施されておらず、安全快適に利用していくためには老朽化対策が必要となっています。

⑦ 多様化する利用者ニーズへの対応

国の計画においては、スポーツの力を活用して持続可能な社会や共生社会の実現に取り組むことが期待されています。スポーツの歴史や種類、ルール、知識を身につけ、情報を得ることで、人々の会話の話題となり、スポーツに親しむ機会も増え、賑わいや交流を促すこともできます。

このため、ダイバーシティ、インクルージョンの理念から誰もが安心してスポーツに親しめることを念頭に、多様化する利用者のニーズを踏まえてソフト（運営面）・ハード（施設機能）両面からみた各種対応が求められています。

⑧ 社会的ニーズへの対応

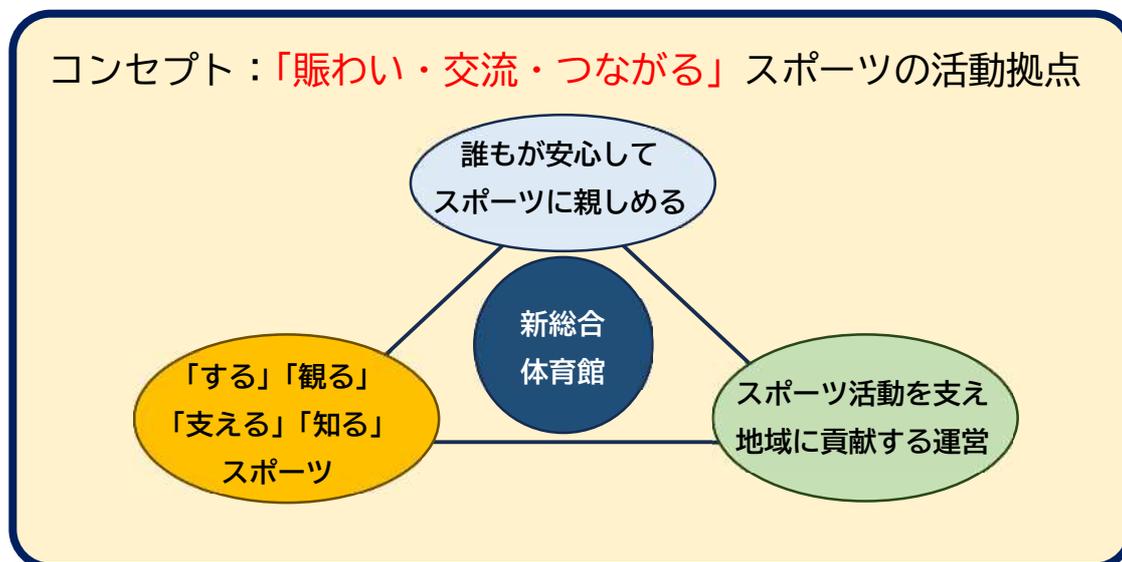
愛知県では 2019 年に国から「SDGs 未来都市」に選定されたことを受け、「愛知県 SDGs 未来都市計画」を策定し愛知県全体で SDGs の達成に向けた取組を推進しており、本市においても総合計画を始め各個別計画では各施策と SDGs の目標を関連付け施策を推進しています。

このため、省エネや脱炭素への対応やデジタル社会への対応など多様な取組みが求められています。さらには、体育館は非常時における避難所機能も有しており、こうした社会的ニーズへの対応が求められています。

6 新総合体育館の基本コンセプト

6.1 基本コンセプト

現体育の抱える課題を踏まえ、新総合体育館のコンセプトを次のように定めます。



(1)誰もが安心して利用できるスポーツの活動拠点

- ダイバーシティ、インクルージョンの理念にもとづき、体力や年齢、障がいの有無、運動・スポーツを実施する目的などに依らず、誰もが安心して、自由に、スポーツに親しめる施設を目指します。
- 地域に根付き、スポーツを通じて市への愛着と誇り（シチズンシップ）の醸成を図れる施設を目指します。
- 市民及び広域的な利用団体の連携・協働を深めることができ、活動種目の垣根を越えて「市民がつながる場」としての施設を目指します。
- スポーツに限らず、文化芸術などの多様な活動を支える機能を持った施設を目指します。

(2)長期的にスポーツ活動を支え、地域に貢献する施設運営

- 地域のスポーツ団体や指導者等と連携した運営を目指します。
- 施設を活かしたイベント等から得られる収入を維持管理、運営に活かすなどマネタイズを意識した運営を図り、行政支出を抑えることを目指します。
- デジタル（ICT）技術を活かし市民ニーズや施設の稼働状況、維持管理費の見える化等を促し、データ活用による効果的な運営を目指します。
- 施設の維持管理や運営面等における重複や非効率な事項は絶えず見直しアップデートさせることで、効率性・効果性の向上を目指します。
- 設計・建設段階から運営の考え方や方法を反映させた施設整備を図ることで、高いパフォーマンスが発揮できる運営を目指します。
- 省エネルギー型の設備の導入や再生可能エネルギーの導入を図り、SDGs 等の社会的ニーズに応えることができる施設を目指します。
- 社会体育施設としての役割を果たすだけでなく、広義な意味で地域社会に貢献できる運営を目指します。

(3) 「する」「観る」「支える」「知る」スポーツの活動拠点

- 他のスポーツ施設との連携・集約による相乗効果を発揮し、スポーツの活動拠点としての「拠点機能」を持った施設を目指します。
- ライフスタイルや価値観の多様化とともに、生活の豊かさやクオリティ・オブ・ライフに対する意識が高まる中、体育機能だけでなく多様な機能を持った施設を目指します。
- 市民・利用者が集い、スポーツを観て楽しむことのできる施設を目指します。
- 運営主体者の考え方や運営方法を把握し、市民・利用者がスポーツに親しむことを支える運営が可能な施設を目指します。
- 部活動改革など、スポーツを取り巻く状況が変化する中においても、スポーツの機会を提供し、スポーツ実施率の向上や競技力の向上が図れる施設を目指します。
- 本格的な競技・スポーツに取り組むアスリートの育成パスウェイ（道筋）と、アスリート思考の人に安定した活動環境を提供できる施設を目指します。
- SNS やメディア、デジタルなどを用いたスポーツの情報発信を行い、スポーツを知る機会を増やせる情報発信拠点となる施設を目指します。

6.2 基本的な施設整備方針

基本コンセプトをもとに、新総合体育館における基本的な整備方針を以下の通り定めます。

(1) 維持管理・運営の基本的なあり方

建設後数十年間に亘って利用される新総合体育館については、持続的な運営方法の確立が重要な課題となります。このため市は、官民連携手法を用いて民間事業者のノウハウを活用した運営体制を築くことで、コンセプト内容の実現を図ることが望ましいと考えます。

スポーツへの親しみやすさや施設の利用しやすさの向上、地域のスポーツ団体や指導者等との連携、多様なイベントの開催、多様な利用者へのプログラム提供等に取り組みます。

近年事例が増えている DBO や PFI（BT0）、Park-PFI 等の事業手法の導入により、飲食施設や子育て支援施設など魅力あるサービスを提供することで施設の収益性の向上を図り、スポーツ活動の拠点施設として「賑わい・交流・つながり」の創出に寄与できるような柔軟な運営に努め、社会体育施設としての役割を果たすだけでなく、広義な意味で地域社会に貢献できる運営が重要だと考えます。

また、維持管理面では、新総合体育館のみならず周辺施設も含めた包括的管理の検討など、スケールメリットを発揮した効率的・効果的な維持管理とコストの縮減を目指します。

さらには、PDCA の観点から適切な評価と改善を図ることで、よりよい維持管理・運営の実施に繋げていくことが大切です。

(2)導入機能の在り方

基本コンセプトを具現化するため新総合体育館に求められる機能を下記の通り整理しました。
なお、各機能の詳細な検討については基本計画において実施します。

総合体育館として 持つべき体育機能	スポーツの活動拠点として、多様なイベントにも対応可能な機能、諸室、設備を確保するとともに、駐車場、ユニバーサルデザイン、環境配慮、防災を導入します。また、市内スポーツ施設の連携・集約化も想定します。
新たに求められる 多様な機能	多様化する利用者ニーズ、社会的ニーズ等を踏まえ、コミュニティ機能、子育て機能、健康増進・リハビリ機能、文化芸術活動等の多様な活動を支える機能、情報発信機能などの機能を導入します。

(3)想定される施設規模

市民の利用実態やニーズ、スポーツ団体等の日常的活動（市内に点在する小中学校体育館で実施し続けることができる）の状況を踏まえつつ、誰もが身近にスポーツを楽しめる環境を整え、多様なイベント運営を可能とし、基本コンセプトを具現化させられる規模の確保が必要です。

一方で、人口や税収の将来的な減少を見据え、財政的に将来世代の負担とならないような施設整備が求められます。上記のような観点から、アンケート調査やスポーツ団体へのヒアリング、市民ワークショップ等での意見を踏まえ、知多半島圏内の屋内競技大会が開催できる施設規模を想定します。

現体育館の規模や他団体の総合体育館整備事例を参考に検討した結果、新総合体育館の施設規模としては、バスケットボールコート3面分を確保可能なメインアリーナ、同じくバスケットボールコート1面分を確保可能なサブアリーナ、その他器具庫等の諸室を含め、総延床面積 9,000㎡程度と見込みます。

ただし、官民連携手法の導入に伴う事業者提案等により、延床面積は変動する可能性があり、具体的な検討は基本計画において実施します。

7 建設候補地の選定

現総合体育館の機能を維持したまま、市有地を活用して新体育館の整備を行うと想定し、「半田びよログスポーツパーク（半田運動公園）（以下、「半田運動公園」とする）敷地内」及び「現半田市立半田病院跡地」を整備候補地とします。

7.1 整備候補地の現況

(1)半田運動公園敷地内

半田運動公園は、スポーツ・レクリエーションの拠点として整備された公園で、半田市と常滑市との境界付近に位置します。公園内には、3種の公認陸上競技場をはじめ、テニスコート、多目的グラウンドなどのスポーツ施設のほか、デイキャンプ場などのレクリエーション施設が存在します。

また、近年では定期的に音楽やダンスなどのイベントが実施され、キッチンカーによる飲食販売を行う事業者も増加しています。

令和7年4月1日に開院した知多半島総合医療センターへのアクセスを確保するため、市内から新たなバス路線が整備されました。

〈基本情報〉

所在地	愛知県半田市池田町3丁目1-1
用途地域	市街化調整区域
敷地面積	267,000 m ²
建築面積（既存施設）	8,110 m ²
建ぺい率（既存施設）	3%
駐車場	700台
公共交通機関	知多バス半田・常滑線 西板山から徒歩約20分

〈位置図〉



出所：国土地理院「地理院地図」より作成

〈写真〉



出所：半田びよログスポーツパーク ホームページ

(2)現半田市立半田病院跡地

半田市立半田病院は、半田市中心市街地活性化推進方針において、半田市福祉文化会館や半田市役所など、生活を支える公共施設が集積する公共ゾーンとして位置付けられています。また同方針において施設西側にある半田運河周辺は、整備された半田運河を中心に、歴史的建造物が集積する、来街者の多い文化伝統の暮らし・魅力発信エリアとして位置付けられています。

J R武豊線半田駅及び名鉄河和線知多半田駅から徒歩で行ける場所に位置し、バスについても市役所前に停留所があり、アクセスの利便性は高いと言えます。

また、住宅地にあることから徒歩や自転車でのアクセスも可能ですが、音の問題や営業時間については配慮を要します。

大会開催時等において多数の利用が生じる駐車場については、立体駐車場、蔵のまち東駐車場等も利用できることから、新たに大規模な駐車場整備は想定されません。

災害区域としては、高潮浸水想定区域、津波災害警戒区域及び洪水浸水想定区域に指定されており、津波災害及び洪水浸水による被害を軽減するためには、3.5m程度の嵩上げを要することとなります。

〈基本情報〉

所在地	愛知県半田市東洋町 2-29
用途地域	第一種住居地域
敷地面積	32,292 m ²
建築面積（既存施設）	—
建ぺい率（既存施設）	—
駐車場	立体駐車場 473 台 平面駐車場 69 台 ※半田市役所と共同利用
公共交通機関	JR 半田駅から徒歩約 10 分、名鉄知多半田駅から徒歩約 15 分 バス（市役所前）から徒歩約 1 分

〈位置図〉



出所：国土地理院「地理院地図」より作成

〈写真〉



出所：半田市立半田病院

7.2 候補地の比較評価

2つの整備候補地について、「まちづくり」「交通利便性」「施設の充実度」「民間活力導入可能性」「災害リスク」「事業性」の6つの評価指標により比較検討を行いました。なお、特に重要と考えられる項目(★)については、重点項目として「×2.0」として評価しています。比較評価指標及び評価結果については以下の通りです。

〈比較評価指標〉

評価値の考え方			・評価は各区分・項目で「良い」とされるものから順に「◎：5点」「○：3点」「△：1点」と数値化 ・特に重要と思われる区分・評価項目については重み付けとして「×2.0」として評価する
区分	重点項目	評価項目	評価内容
まちづくり	★	将来の都市づくりの整合性	土地利用方針（法規制、都市計画マスタープラン、立地適正化区域）からみた評価 ◎：土地利用方針に合致する ○：土地利用方針と矛盾しない △：土地利用方針との整合性がとれない
	—	中心市街地の活性化	施設を立地することで中心市街地の活性化に貢献できるか ◎：中心市街地区域内 ○：中心市街地地域隣接地域 △：それ以外
	—	スポーツ施設に限らず公共施設整備における多様な機能の集約性	公共施設の集約により都市機能の効率化に繋がるか ◎：公共施設として多様な機能の集約がしやすい △：公共施設として多様な機能の集約が難しい
	★	スポーツ施設としての拠点性	他スポーツ施設との連携（大会等のイベント時の相互利用）による相乗効果が期待できるか ◎：施設が集積しており連携がとりやすい △：施設が集積しておらず連携がとりにくい
	—	周辺住宅等への影響	早朝や21時以降の営業、イベント時に交通混雑や騒音等の周辺住宅等への配慮が必要か ◎：不要 ○：必要
交通利便性	—	市内（知多半田駅）からのアクセス	市内からのアクセスが容易か（知多半田駅から候補地への時間距離・公共交通手段の有無） ◎：市中心部からの時間距離が短く、公共交通手段も整っている ○：市中心部から時間距離はあるが、公共交通手段は整っている △：市中心部から離れており、自家用車以外でのアクセスが困難
	—	市外（知多地域）からのアクセス	市外からのアクセスが容易か（知多地域の各自治体庁舎から候補地への自動車での時間距離） ◎：時間距離が相対的に短い ○：時間距離が相対的に長い
	—	市内、交通渋滞（主要アクセス道路の状況）	施設への集客によって周辺で交通渋滞を発生させるリスクがないか ◎：相対的に混雑リスクが低い ○：相対的に混雑リスクが低い
施設の充実度	—	敷地面積の規模	想定される必要面積に対して十分か（想定敷地面積：約8,500㎡） ◎：2倍以上の面積が確保できる ○：1.5倍以上の面積が確保できる △：ほぼ同等の面積が確保できる
	—	駐車場・駐輪場の確保	敷地に余裕があり、一定程度の駐車場・駐輪場を確保できるか ◎：隣接して確保できる場所がある ○：少し離れて確保できる場所がある △：確保が難しい
	—	将来的な施設拡張性の有無	将来的な市民・利用者ニーズの変化に対応するための施設拡張余地があるか ◎：拡張余地がある ○：多少の拡張余地がある △：拡張余地がない
民間活力導入可能性	—	誘客・稼働率の向上	多くの需要が見込めるか ◎：多くの需要が見込める ○：需要の見込みがある △：需要の見込みが低い
	—	維持管理・運営費用の抑制	複数施設の一体的運営によるスケールメリット（維持管理・運営の効率化）が期待できるか ◎：複数施設の一体的運営が可能 △：単独施設の運営に留まる
災害リスク	—	洪水災害	ハザードマップによる評価（浸水想定区域） ◎：浸水想定区域外 ○：0.5m未満 △：0.5m以上
	—	土砂災害	ハザードマップによる評価（土砂災害警戒区域） ◎：土砂災害警戒区域外 ○：付近に土砂災害警戒区域がある △：土砂災害警戒区域内
	—	地震災害	ハザードマップによる評価（過去地震最大モデルによる最大深度の想定） ◎：震度6弱以下 ○：震度6強 △：震度7以上
	—	緊急輸送道路	緊急輸送道路との近接性 ◎：接道している ○：近接している △：離れている
	—	災害時の市民病院との連携	災害時における市民病院と救急対応の連携が図れるか ◎：連携が図りやすい、△連携が図りづらい
事業性	—		用地取得、造成費用、アクセス道路整備等による事業費用増加要因リスクの有無 ◎リスク低：変動する要素がない ○変動する要素が少ない △変動する要素が多い
	—	事業費用の増加リスク 事業期間の延長リスク	土壌汚染調査等による期間延長リスクの有無 ◎リスク低：土壌汚染調査等の必要がない △リスク高：土壌汚染調査等の必要がある
	—		埋蔵文化財調査等による費用増加・期間延長リスクの有無 ◎リスク低：周知の埋蔵文化財包蔵地外 △リスク高：周知の埋蔵文化財包蔵地内
	★	財源確保の可能性	補助金や交付金、起債条件の整理 ◎補助金・特例債などの割合が大きいの △補助金・特例債の割合が小さい △：地方債のみ

〈比較評価結果〉

区分	重点項目	評価項目	候補地①：半田運動公園敷地内	109	候補地②：現半田市立半田病院跡地	77
まちづくり	★	将来の都市づくりの整合性	『都市計画マスタープラン』における将来都市構造では健康・スポーツゾーンに位置し、土地利用方針と施設の機能が合致する	◎ 10	『立地適正化計画』における都市機能誘導区域に位置するがスポーツ施設は誘導施設に該当しない ただし、スポーツ施設は集客を見込む施設であることから「立地適正化計画」の中心拠点に位置することは方針と矛盾しない	○ 6
	—	中心市街地の活性化	中心市街地から離れており、賑わいの創出に寄与しづらい	△ 1	公共施設を中心市街地区域内に集約することで、賑わい創出が期待できる	◎ 5
	—	スポーツ施設に限らず公共施設整備における多様な機能の集約性	公共施設として多様な機能の集約が難しい	△ 1	公共施設として多様な機能の集約がしやすい	◎ 5
	★	スポーツ施設としての拠点性	総合運動公園内の他スポーツ施設との連携や駐車場の共同利用等の相乗効果が期待できる	◎ 10	スポーツ施設が集積しておらず連携は困難である	△ 2
	—	周辺住宅等への影響	不要（人口密度が相対的に低く、周辺に住宅が少ない）	◎ 5	必要（人口密度が相対的に高く、周辺に住宅が多い）	○ 3
交通利便性	—	市内（知多半田駅）からのアクセス	市中心部からは離れているが、新病院移設に合わせ半田市内からの公共交通（バス）が整備予定 周辺の主要道路からのアクセスも問題ない	○ 3	市中心部から近く、鉄道やバスなどの公共交通機関も豊富であり、周辺の主要道路からのアクセスも問題ない	◎ 5
	—	市外（知多地域）からのアクセス	時間距離が相対的に短い 常滑市：7分 東海市：25分 大府市：28分 知多市：24分 阿久比町：13分 東浦町：21分 南知多町：24分 美浜町：17分 武豊町：17分	◎ 5	時間距離が相対的に長い 常滑市：23分 東海市：37分 大府市：39分 知多市：38分 阿久比町：15分 東浦町：29分 南知多町：33分 美浜町：27分 武豊町：13分	○ 3
	—	市内、交通渋滞（主要アクセス道路の状況）	主な進入路となる道路は片側1車線の幅員約8mとなっており、車のすれ違いが十分に可能で、平日・休日（イベント時は除く）ともに周辺道路の渋滞はみられない	◎ 5	進入路となる道路は片側2車線の幅員約8mとなっており、車のすれ違いなどは十分に可能だが、平日の昼頃と夕方頃にやや混雑が発生している	○ 3
施設の充実度	—	敷地面積の規模	想定必要面積の2倍以上の建設可能面積が確保可能 建設可能面積23,930㎡ ＝敷地面積267,000㎡×建蔽率12%－既存施設建築面積8,110㎡ ※建蔽率は都市計画法施行令第6条第6項の特例により10%上乗せ	◎ 5	想定必要面積の2倍以上の建設可能面積が確保可能 建設可能面積14,852㎡ ＝敷地面積32,292㎡×建蔽率60%－既存施設建築面積4,523㎡	△ 3
	—	駐車場・駐輪場の確保	隣接して確保できる場所がある	◎ 5	隣接して確保できる場所がある（既存立体駐車場）	◎ 5
	—	将来的な施設拡張性の有無	総合運動公園内に公園等のスペースがあり、拡張余地がある	◎ 5	住宅や市役所などで周囲を囲まれており、拡張余地がない	△ 1
民間活力導入可能性	—	誘客・稼働率の向上	市外（知多地域）からのアクセスが比較的優れており、半田市内外からの広域誘客を見込める	◎ 5	中心市街地に位置しており、日常的な近距離誘客を見込める	◎ 5
	—	維持管理・運営費用の抑制	総合運動公園内の他施設も含めた複数施設の一体的運営が可能であるため、スケールメリットが期待できる	◎ 5	一体的運営が可能な他施設は存在せず、単独施設の運営に留まるためスケールメリットは期待できない	△ 1
災害リスク	—	洪水災害	浸水想定区域外	◎ 5	想定される浸水深0.5～3m（周辺は浸水想定3～5m）	△ 1
	—	土砂災害	土砂災害警戒区域外	◎ 5	土砂災害警戒区域外	◎ 5
	—	地震災害	最大震度：6弱	◎ 5	最大震度：6強	○ 3
	—	緊急輸送道路	緊急輸送道路との接道なし ※将来的に緊急輸送道路指定の可能性有り	△ 1	第3次緊急輸送道路と接道	◎ 5
	—	災害時の市民病院との連携	市民病院の移転により隣接するため、連携が図りやすい	◎ 5	市民病院の移転により距離が離れるため、連携が図りづらい	△ 1
事業性	—	事業費用の増加リスク 事業期間の延長リスク	用地取得、造成費用、アクセス道路整備等による費用増加リスクは低い 駐車場については、既存敷地内での整備に加え運動公園内の他エリアの活用などの工夫が可能であるため新たな用地取得や造成の必要性は低い	◎ 5	用地取得、造成費用、アクセス道路整備等による費用増加リスクは低い。既存施設の解体状況によっては事業期間が延長される可能性がある。 駐車場については、既存立体駐車場を継続して利用可能であるため新たな用地取得や造成の必要性は低く、敷地内での増量設置も可能	○ 3
	—		土壌汚染調査等の必要がなく、期間延長リスクが低い	◎ 5	病床数が300以上の病院であるため、厨房施設・洗浄施設・入浴施設の土壌汚染調査等の必要があり、期間延長リスクが高い	△ 1
	—		周知の埋蔵文化財包蔵地外だが、運動公園内に包蔵地が点在しており、配置検討の際に考慮する必要あり	○ 3	周知の埋蔵文化財包蔵地外	◎ 5
	★	財源確保の可能性	①社会資本整備総合交付金（通常スキーム） ⇒都市公園法施行令第31条各号に定める公園施設の整備に要する費用の1/2 ⇒民間事業者が行う特定公園施設の整備に対して行政が負担する額の1/2を支援 ※特定公園施設の整備に対する行政の負担額が、民間資金の還元により当初予定から1割以上削減された場合に限り（官民連携型） ※当該特定公園施設の建設に要した経費について、債務負担行為を設定し管理運営期間にわたって支出することも可能 ※Park-PFI実施検討が必要 ※現体育館の解体費用は補助対象外 ②学校施設環境改善交付金（通常建設） ⇒文部科学大臣が必要と認める面積に建築単価（/㎡）を乗じたものの1/3 ※現体育館の解体費用は補助対象外	◎ 10	①都市構造再編集中支援事業（立通・都市再生整備計画） ⇒1箇所における整備に要する費用の上限は21億～30億 ⇒ただし体育館は都市機能誘導施設ではないため対象外 ※子育て支援センター等の都市機能誘導施設に設定されている施設を複合化する場合、該当する部分のみ対象となる。 ②学校施設環境改善交付金（通常建設） ⇒文部科学大臣が必要と認める面積に建築単価（/㎡）を乗じたものの1/3 ※現体育館の解体費用は補助対象外	○ 6

7.3 建設地及び建設地内の整備場所の検討

(1)建設地

基本コンセプト及び施設整備方針を基に、市民アンケート及びワークショップ、スポーツ協会からの要望やスポーツ団体へのヒアリング、さらに民間事業者へのサウンディング調査結果を踏まえ、【半田運動公園敷地内】と【現半田市立半田病院】を総合的に比較評価した結果、「将来的な敷地内の施設拡張性」「複数施設の一体的運営によるスケールメリット」が発揮しやすい【半田運動公園敷地内】を新総合体育館の建設地としました。

① 市民アンケート・市民ワークショップ

建設地に対する課題点として、「広域的な利用、イベント時の交通混雑障害を避ける、十分な駐車場、市民病院との連携、災害時の防災機能を担う」との意見がありました。

② スポーツ協会からの要望とスポーツ団体へのヒアリング

建設地に対する課題点として、「十分な駐車場の確保、大規模な大会の開催ができる、市民病院との連携、災害時の防災機能を担う」との意見がありました。

③ 民間事業者サウンディング（効果的な体育館の運営）

効率的かつ効果的な新総合体育館の運営について、実績ある複数の民間事業者にサウンディングを実施したところ、「建設地周辺の活用可能地の有無、周辺施設の一括管理運営が活かせる場所が良い」との意見がありました。

(2)建設地内の整備場所の検討

新総合体育館の建設地は「半田運動公園敷地内」としますが、敷地内には既に多くの公園施設が設置され、新総合体育館の設置可能場所は限定されています。想定される施設規模が総延床面積 9,000 m²程度であることから、下図の「A」「B」「C」「D」の箇所が設置場所として想定されます。

なお、整備場所の決定については基本計画において実施します。



出所：半田びよログスポーツパーク ホームページ「公園案内図」より作成

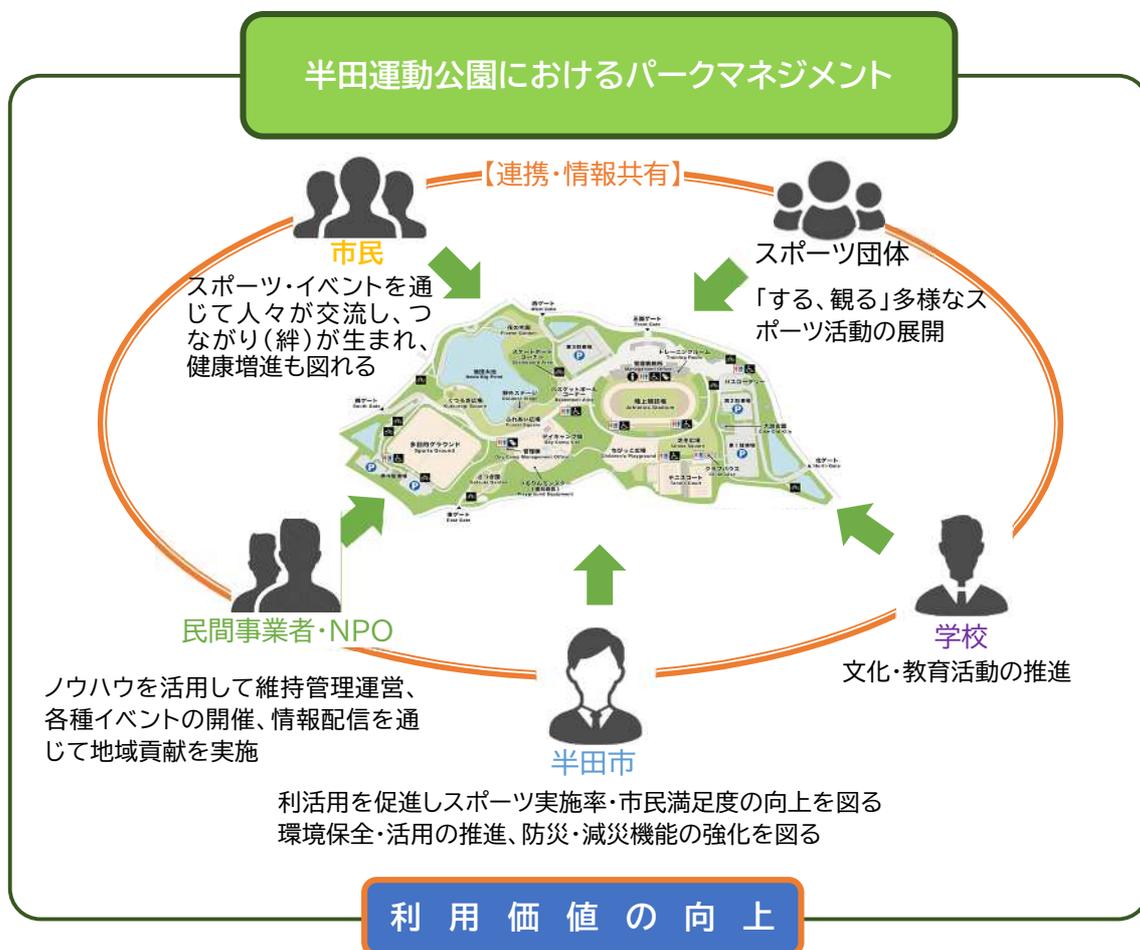
8 半田運動公園におけるパークマネジメント

半田運動公園は、本市の健康・スポーツゾーンに位置付けられ豊かな緑を有するオープンスペースであり、スポーツ推進計画の基本理念で示されている『市民が、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しむことができる社会、すなわち「生涯スポーツ社会」の実現』に向けたスポーツ活動の場であり、豊かな地域づくりに資する交流の空間、都市環境の改善、都市の防災・減災性の向上等、多様な機能を有する貴重な都市公園です。

一方、半田運動公園を取り巻く近年の社会情勢は大きく変化しており、人口減少・少子高齢化や利用者のニーズの多様化に伴う利用形態の変容や施設の老朽化に伴い維持管理・運営者費の増大、都市公園が持つ効果を引き出す人材の不足等の課題が生じています。

こうした状況を踏まえ、半田運動公園を有効に活用していくためには、市民やスポーツ団体、学校、行政、民間事業者等にとって貴重な共有資産であることを認識し、都市公園として効率的かつ効果的な維持管理・運営を推進し利用価値を高めていくことが必要です。このため、新総合体育館（スポーツ活動の拠点）の立地を機会に半田運動公園では「パークマネジメント*」手法を導入し、関与する全ての人々が連携・情報共有して利用価値の向上に向けた様々な取組を展開していきます。

*パークマネジメントとは、行政の貴重な資源となる公園にコミュニティ(安らぎ、憩い、賑わい)形成や環境保全と活用、防災・減災などの効果を行政、市民、スポーツ団体、学校、民間事業者が連携しながら、様々な技術や多様な運営手法を用いて最小限のコストで最大化させようとする手法1つのことです。



9 事業スケジュールと今後の課題

9.1 事業スケジュール（案）

基本構想策定後のスケジュールについては、令和7年度に基本計画の策定及び民間活力導入可能性調査を並行して実施し、事業手法を決定した上で詳細なスケジュールの検討を行います。ここでは民間活力（PPP/PFI）を導入した場合に想定されるスケジュールを示します。また、社会・経済（建設市場の動向）によってはスケジュールの見直しが求められます。

〈事業スケジュール（案）〉

年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
事業 スケジュール	基本 構想	基本 計画	発注準備	事業者 応募・選定・ 契約	設計		建設・外構工事	
		民間活力 導入可能性 調査						開業 準備
								★ 開業 目標

9.2 今後の課題

本基本構想では、現状と課題を整理・分析し、市民や関係団体からの意見聴取を行いながら基本コンセプトや建設候補地を示してきました。

今後は、施設の運営や適切な施設規模や概算事業費、事業手法、財源、民間活力導入の可能性等について検討し基本計画を策定していきます。

(1) 望ましい民間運営事業者の発掘と運営方針の検討

民間事業者のノウハウを活用して地域と連携しながら安定した運営を目指し、望ましい民間運営事業者の発掘を行う必要があります。また、建設候補地が半田運動公園内であることに鑑み、他のスポーツ施設との連携や広域的な活用、効果的なイベント等の開催など効率的かつ効果的な運営方針を検討する必要があります。

(2) 施設運営から考える施設計画の検討

更なるサービスの質的向上を図るため、新総合体育館の運営方針を施設計画に反映していく必要があります。また、市民の期待や多様化する利用者ニーズに応えることのできる機能・諸室の設置、規模の確保、混雑時の動線処理を考えたゾーニング、駐車場の設置を含む施設配置、平面計画等の検討を行う必要があります。

(3) スポーツ施設の集約化の検討

公共施設等総合管理計画においては、人口減少の進行等に伴い将来的には公共施設のニーズが減少し、保有する公共施設等が過剰になる「量の課題」が指摘されています。施設総量の適正化を踏まえ、公共施設の集約化についての可能性の検討を行う必要があります。

(4) 駐車場設置のあり方の検討

建設候補地となる半田運動公園内には複数の駐車場が設置されていますが、新総合体育館を利用した大規模イベント開催時には、現在よりも大規模な駐車場が必要になることを踏まえ、駐車場整備のあり方を整理しておく必要があります。

(5) 概算事業費の算出

施設計画を踏まえた施設整備費(設計・建設、外構工事費)や什器・備品購入費、維持管理・運営費等の費用を含めた概算事業費を検討する必要があります。また、近年は建設単価、労務単価の高騰が著しく物価変動対策も重要な検討課題となっています。こうした市場動向を踏まえながら費用の算出を行っていく必要があります。

(6) 事業手法の検討

長期的に市民のスポーツの活動を支えることのできる施設整備や維持管理、運営の実施に向けて、官民連携により民間事業者のノウハウを最大限活用できるようサウンディング調査を実施し、その上で近年の他団体事例等を踏まえた定性的・定量的な評価を実施することで、適切な事業手法を検討する必要があります。

(7) 財源の確保

健全な財政運営と将来世代の負担を軽減するため、事業手法と同時に活用可能な補助金や交付金及び起債、基金の確保等について把握・整理を行い、有効活用していく必要があります。